

令和5年度 浜松市教育研究会園長研究部構想

浜松市教育研究会基本テーマ	愛情と情熱を持って学び続け 未来を拓き 生き抜く力を育てよう
目指す教師像	○ キャリアステージでの専門性と指導力を追求する教職員 ○ 愛情と情熱を持って自ら学び続ける教職員

幼稚園教育の基本理念	幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。(学校教育法 第二十二條)
社会的背景	○少子化・核家族化、人口の地域格差、情報の氾濫とネット社会による人間関係の希薄化 ・集団で遊ぶ機会や体験の減少 ・自然環境や戸外遊び場の減少による室内遊びの増加 ○保育料無償化や母親の就労により長時間保育の需要が高まり、認定こども園・保育所の増加 ○個別の支援が必要な子や浜松市内に居住する外国人の増加 ○自然災害や感染症等、安全面に対する危機管理体制強化の必要性 ○全国的な保育士不足による就労環境の見直し
子供の現状	○生活形態や様式・食生活の変化による幼児の心身発達の乱れや変化 ・基本的生活習慣の不定着、運動能力の低下、ゲームやスマホ視聴等の増加による視力低下 ・自然体験の不足、非認知能力の低下(忍耐力・自己抑制・自尊心) ・言語発達とコミュニケーション力の未熟化 ・愛着の形成不足による情緒不安定と学ぶ意欲の低下

幼稚園教育要領のポイント	第3次浜松市教育総合計画(はままつ人づくり未来プラン)後期計画4年次
1 幼稚園教育において育みたい資質・能力の明確化 (1)「知識及び技能の基礎」 (2)「思考力・判断力・表現力等の基礎」 (3)「学びに向かう力、人間性等」 ※これらは遊びを通しての総合的な指導を行う中で一体的に育てていくことが重要	<教育理念> 未来創造への人づくり 市民協働による人づくり
2 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の明確化と幼小接続の推進	<目指す子供の姿> ・自分らしさを大切にする子供 ・夢と希望を持ち続ける子供 ・これからの社会を生き抜くための資質や能力を育む子供
3 幼児一人一人の良さや可能性を把握する等、幼児理解に基づいた評価の実施	<方針1> 子供の「生きる力」を育む教育の充実
4 育みたい資質・能力の実現に向けた園全体でのカリキュラム・マネジメントの実施	<方針2> 魅力ある教育を支える環境の整備
5 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた保育改善の推進	<方針3> 子供の育ちを支える家庭や地域との連携・協働
6 特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実	
7 教育課程外の教育活動と子育て支援の充実	
令和5年度浜松市立幼稚園教育課程編成・実施の指針	第2期浜松市子ども・若者支援プラン4年次
各幼稚園は基本方針に基づき、「はままつ教育」が目指す教育の趣旨が反映された自園ならではの教育課程を編成し、本市及び自園の教育目標達成を目指して、組織的、計画的に教育活動を進める。 <教育課程編成の視点> 1 カリキュラム・マネジメントの充実 2 教育目標の明確化 教育課程編成の方針を家庭や地域と共有 3 幼稚園生活が安全なものとなるよう環境の配慮や指導の工夫 4 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有 小学校教育との円滑な接続 5 教育課程を中心に全体的な計画を作成	<基本理念> 子どもの育ちと若者の自立を支え、安心して暮らすことができるまち浜松 <基本目標：幼稚園に関するもののみ抜粋> 子どもが生き生きと輝き、子育てがしやすく楽しいと感じられるために <基本施策：幼稚園が取り組むべきもののみ抜粋> 子ども・子育て支援 就学前における教育・保育の提供 地域の子ども・子育て支援

課題	○ 幼稚園教育要領を踏まえ、「10の姿」や「幼児期に育てたい力」を活用した質の高い教育の推進 ○ 子供の学びをつなげる幼児期の教育と小学校教育との接続の強化 ○ 一人一人の子供のニーズに応じた様々な支援、他機関との連携 ○ 「はますくファイル」を積極的に活用した子育て支援 ○ 災害や感染症等に対応した安心・安全な幼稚園づくり(危機管理) ○ 小規模園における保育・園経営の在り方 ○ 教職員の資質・専門性の向上につながる職員指導や園内研修の充実、ミドルリーダーの育成
----	--

研究テーマ	生きる力を育てる幼児教育の創造 ～園長としての資質向上を目指して～
内容	社会のニーズに対応した創意工夫ある園経営と次の時代を担う職員を育てる園長のリーダーシップ
視点	1 「幼保小の架け橋プログラム」を活用した幼小接続の工夫 2 つながりのある発達支援教育の推進 3 安心・安全な園経営のための危機管理能力の向上 4 小規模園における幼児教育の充実に向けた園経営の工夫

1 研究テーマの受け止め

今年度は、第3次浜松市教育総合計画（後期）と第2期浜松市子ども・若者支援プランが第4年次となる。

また、新幼稚園教育要領においては実施され6年目となり、浜松市として打ち出された「幼児期に育てたい力」も改訂されて4年が経過した。今、園に課せられているものは、生きる力の基礎となる資質・能力を確実に育む質の高い幼児教育の提供、家庭や地域に向けた幼児教育の発信と活用の工夫、全職員の協力体制の下、組織的かつ計画的に教育活動を推進する力である。

更に近年では、保育料の無償化や母親の就労等により浜松市立幼稚園への就園率が大幅に減少しているが、浜松市立幼稚園ならではの良さを活かした教育の在り方を模索しながら、質の高い幼児教育を目指した様々な実態に即応した創意工夫ある園経営が求められている。

そこで本研究部では、園長自らが専門性を高めリーダーとしての力を発揮しながら、次の時代を担う職員の育成に努めていけるよう、研究内容を次のように設定した。

2 研究内容

「社会のニーズに対応した創意工夫ある園経営と次の時代を担う職員を育てる園長のリーダーシップ」

視点1 「幼保小の架け橋プログラム」を活用した幼小接続の工夫

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「幼児期に育てたい力」を子供の姿から捉え話し合うことができる職員の育成と共に、幼児教育と小学校教育との学びの連続性を円滑につなげるための工夫や、「幼保小の架け橋プログラム」を理解し、活用しながら連携の在り方を探る。

視点2 つながりのある発達支援教育の推進

支援が必要な子供の育ちや特性を的確に捉え、ニーズに応じた園内の指導支援体制を構築し、職員の育成を図る。また、行政関係機関や小学校との連携、「はますくファイル」を活用した保護者への子育て支援の工夫等を、組織的・有効的に取り組んでいく。

視点3 安心・安全な園経営のための危機管理能力の向上

事故や感染症、災害等から子供たちの命を守ったり、安全・安心な環境整備や子供への関わりに努めたりし、予防に対する意識の向上や対応能力を組織的に高めていく。

視点4 小規模園における幼児教育の充実に向けた園経営の工夫

「浜松市立幼稚園 少人数保育カリキュラム」の活用や少人数保育・複式学級・異年齢保育の良さ、地域の人材・環境を活かした保育についての情報交換など、様々な小規模園の実態に応じた園経営の充実を図っていく。

3 研究方法

- ・4つの視点から研究内容を掘り下げ、研究を推進する。
- ・研究したい視点と内容についてアンケートを実施し、希望を考慮した上でのグループ編成を行う。
- ・グループ研修では、視点の意図を共通理解して研究内容を深め、研究テーマに迫る協議をする。
- ・研修推進については、グループリーダーを中心にを行い、3回の研修の充実を図る。
- ・報告については、各グループから出た報告を取りまとめ、HPに掲載し互いの情報交換を行う。
- ・研究の深まりや課題解決、見聞を深めるために講師を招聘し、指導・助言を受ける。

4 研究計画

回	日時	内容	会場
1	5月23日(火)15:00~16:30	○ グループ研修	浜松市教育会館
2	7月26日(水)9:15~11:45	○ 講演 ・「幼児教育と小学校教育の円滑な接続について」 講師 静岡県教育委員会 義務教育課 幼児教育推進室長 福井 孝子 氏 ○ グループ研修	浜松市 教育会館
3	11月2日(木)15:00~16:30	○ グループ研修 ○ 今年度の評価及び次年度への展望	浜松市教育会館